

# ▶ 釣り

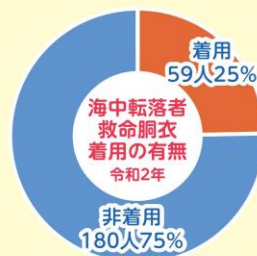
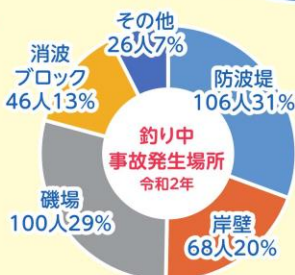
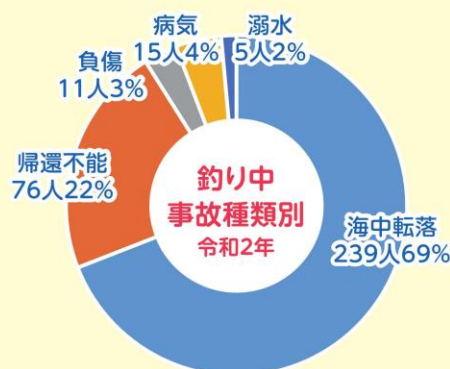
古来から行われている釣りは、日本でも人気のあるウォーターアクティビティの一つであり、多くの方が楽しんでいますが、例年、事故防止に必要な知識・装備を身に付けていないことによる事故が多く発生しています。



## ● 釣り中の事故発生状況



- ・ 令和2年における釣り中の事故者数は346人で、このうち死者・行方不明者数は105人
- ・ 事故内容別では海中転落が全体の約7割を占める
- ・ 海中転落者のライフジャケット着用率は約3割



## ■ 釣り中の事故を防止するための3つのポイント

- 1 天気予報や体調を考慮し、決して無理をしない。
- 2 釣行計画を第三者に伝え、単独行動をしない。
- 3 立入禁止区域内に入らない。

## 釣りに関する安全情報 ▶▶▶



釣り中の事故を防止するため、必要な知識・装備を身につけて、安全に釣りを楽しみましょう。  
詳しくは、ウォーターセーフティガイド(釣り編)をご覧ください。



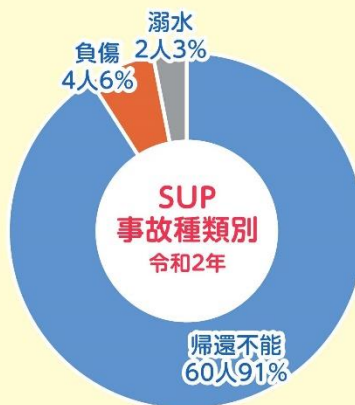
WSG(釣り編)

## ▶ SUP スタンドアップパドルボード

SUPは、海などで専用のボードの上に立ち、パドルを用いて水面を漕いで移動を楽しむウォーターアクティビティで、波や風の無い穏やかな水面で楽しむという特徴があります。一方で、荒天や技能不足による事故も発生しています。



### ● SUPの事故発生状況



- ・ 令和2年におけるSUPの事故者数は66人で、令和元年と比較すると倍増
- ・ 事故内容別では風浪等の影響で沖合等に流され、陸岸に戻れない帰還不能が最も多く発生している

## ■ SUPの事故を防止するための3つのポイント

- 1 気象・海象の確認
- 2 海に出る前にSUPに必要な基本技術を身に付ける
- 3 単独での行動は控え、複数で行動する

### SUPの安全情報 ▶▶▶



SUPを安全に楽しむために、SUP関係団体が実施する講習等を受講し、安全に関する知識・技能を身に付けましょう。  
詳しくは、ウォーターセーフティガイド(SUP編)をご覧ください。



WSG(SUP編)

# ▶ ミニボート

船体の長さが3m未満であり、かつ、推進器の出力が、1.5KW(2.039馬力)未満の船舶をいいます。

小型船舶操縦士の免許や小型船舶検査・登録が不要なことも相まって、近年、利用者が増加している一方、転覆・浸水などの事故も増加傾向にあります。



## ● ミニボート事故発生状況



- ・ 令和2年におけるミニボートの事故隻数は103隻で、令和元年と比較すると13隻増加
- ・ 平成16年からの海難統計以来、初めて100隻を超える事故が発生
- ・ 海難種類別では転覆・浸水が全体の約4割を占める

## ■ 転覆・浸水を防止するための3つのポイント

- 1 船のバランスに注意し、船内では立ち上がらない
- 2 波が高い場合(波高20cm以上)や風が強い場合(風速4m/s)は出航しない
- 3 遠くまで行かない(岸から1km以内、出航地から2km以内程度)

## ミニボートの安全情報 ▶▶▶



ミニボートを安全に楽しむために、ミニボートの特性を理解し、海の基礎知識や必要な装備品を確認しましょう。  
詳しくは、ウォーターセーフティガイド(ミニボート編)をご覧ください。



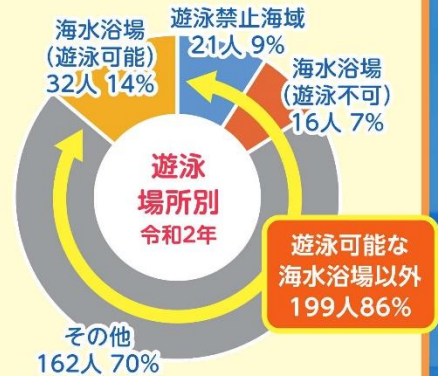
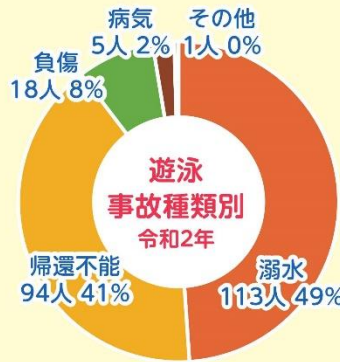
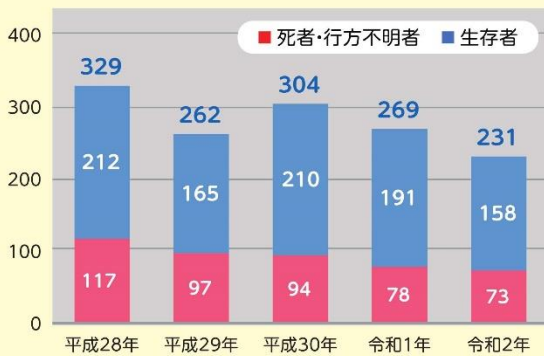
WSG(ミニボート編)

# ▶ 遊泳

海での遊泳は特別な用具もいない身近なウォーターアクティビティの一つであり、多くの方が楽しんでいますが、少なからずリスクが存在し、例年、遊泳中の事故が多く発生しています。



## ● 遊泳中の事故発生状況



- ・ 令和2年における遊泳中の事故者数は231人で、このうち死者・行方不明者数は73人
- ・ 事故内容別では溺水と帰還不能が全体の9割を占める
- ・ 事故の発生場所別では遊泳可能な海水浴場以外における事故が8割以上を占める

## ！ 遊泳中の事故を防止するための4つのポイント

- 1 ライフセーバーや監視員がいる管理された海水浴場で泳ぎましょう!
- 2 保護者は常に子どもから目を離さない
- 3 お酒を飲んだら泳がない
- 4 風の強い日はフロートを使用しない

## 遊泳に関する安全情報 ▶▶▶



遊泳中の事故を防止するため、危険(リスク)に対する身の守り方を知り、安全に遊泳を楽しみましょう。  
詳しくはウォーターセーフティガイド(遊泳編)をご覧ください。



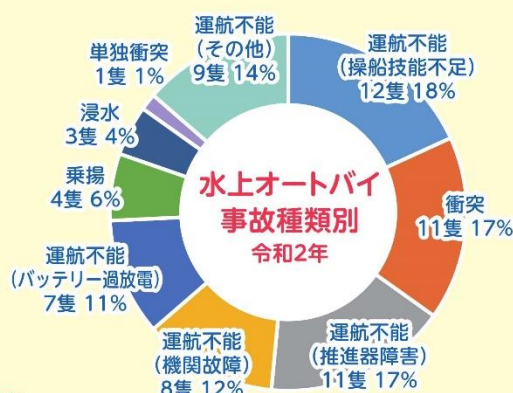
WSG(遊泳編)

# ▶ 水上オートバイ (PWC)

ウォータージェットを推進力として水上を滑走する乗り物で、操船には特殊小型船舶操縦士免許が必要です。水上オートバイは機動性に優れ、スピード感を楽しめる乗り物ですが、例年、船舶や遊泳者との衝突事故などが発生しています。



## ● 水上オートバイの事故発生状況



- ・ 令和2年における水上オートバイの事故隻数は66隻で、令和元年と比較すると4隻減少
- ・ 海難種類別では転覆した水上オートバイを復原させることが出来ずに漂流する事案等の運航不能(操船技能不足)が最も多く、次いで衝突の順に発生している

## ■ 水上オートバイの事故を防止するための4つのポイント

- 1 他の船舶や遊泳者等の近くで危険な操縦をしない
- 2 急加速・急旋回等で同乗者を振り落としたり、水かけ、トーイング遊具を振り回すなどの危険行為をしない
- 3 落水時による負傷事故防止のため、適切なウェットスーツ、ライフジャケットの着用を徹底する
- 4 転覆による漂流を防止するため、復原の方法や注意事項などを確認する

## 水上オートバイの安全情報 ▶▶▶



水上オートバイの事故防止のため、安全に関する知識や技能を身に付けるとともに、必要な装備を正しく装着するようにしましょう。詳しくは、ウォーターセーフティガイド(水上オートバイ編)をご覧ください。



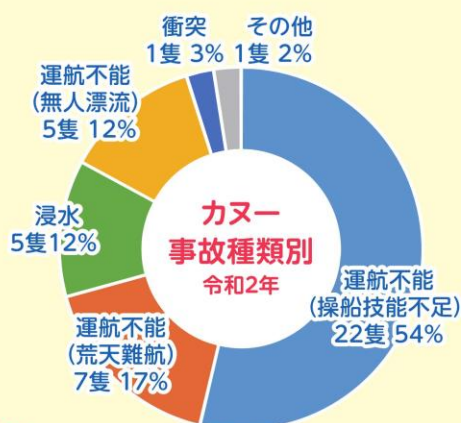
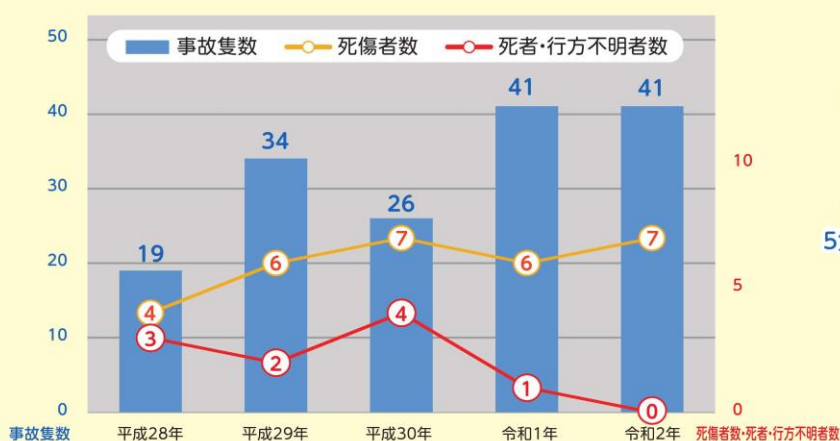
WSG(水上オートバイ編)

# ▶ カヌー

パドルと呼ばれる櫂で漕ぐ舟のことで、海・川・湖でツーリングや競技を楽しむスポーツ・レクリエーションとして世界中で愛好されていますが、例年、荒天や技能不足による事故も多く発生しています。



## ● カヌーの事故発生状況



- ・ 令和2年におけるカヌーの事故隻数は41隻で、令和元年と同数
- ・ 海難種類別では転覆したカヌーを復原させることが出来ずに漂流する事案等の運航不能(操船技能不足)が最も発生している

## カヌーの事故を防止するための3つのポイント

- 1 気象・海象の確認(初心者は風速5m/sを超えるときは出航しない)
- 2 海に出る前に沈脱やロールなど、転覆した際に必要な基本技術を身に付ける
- 3 単独での行動は控え、複数のカヌーで行動する

## カヌーの安全情報 ▶▶▶



カヌーを安全に楽しむために、カヌー関係団体が実施する講習等を受講し、安全に関する知識・技能を身に付けましょう。  
詳しくは、ウォーターセーフティガイド(カヌー編)をご覧ください。



WSG(カヌー編)